

放射線部

2025年12月に、最新のCT装置「Canon Aquilion ONE / INSIGHT Edition」を導入しました。CT検査では体が動くと画像が不鮮明になることがあります。この装置では撮影時間が最短0.24秒と大幅に短縮され、短時間で撮影が完了します。そのため、じっとしていることが難しいお子さんでも負担が少なく、より安心して検査を受けていただけます。また、最新のAI技術を用いた画像再構成により、以前の装置より少ない線量で高画質な画像を得ることが可能となり、検査時の被ばくが低減しました。さらに、診断に寄与しない放射線を効果的に減らす銀フィルターを搭載しており、被ばく低減にも大きく貢献しています。加えて、検査室のレイアウトや装飾を見直し、明るく落ち着いた雰囲気と

なるよう工夫しました。お子さんが不安を感じにくい環境づくりを心がけ、検査前の説明も行っています。新しいCT装置の導入により、これまで以上に安全で質の高い検査を提供できるよう、今後も患者さんに寄り添い、安心して検査を受けていただけるよう努めてまいります。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

お手元に届く頃には梅雨が明けて、蝉しぐれが賑やかな季節となっているかもしれません。涼しい院内から一歩外に出ると、サウナ状態に驚く毎日です。夏バテ対策と言い訳をして、つつい毎日アイスを食べてしまいます。食欲が落ちる気配はなく、私の体重だけが右肩上がりに成長中です。皆様はわたしのようにはならぬよう、食べ過ぎには注意して、健康的な夏をお過ごしください。(A.T)

委員長：貝藤裕史
副委員長：河野早苗
委員：猪股高爾 山田健太
吉井拓真 藤山真弓
松本智美 松下伊都子
上西美奈子 辻田利香
中村直子 鷹尾伏彩
田中陽 青木美穂
井上徹 藤原基弘
嘉土淳子 三木貴久子

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL.078-945-7300
FAX.078-302-1023
<https://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

08病P2-0006A4

げんき カエル



兵庫県立こども病院
ニュースレター



令和8年(2026) 7月1日

新院長のご挨拶

杉多 良文 院長

令和8年4月より院長を拝命いたしました杉多良文でございます。身に余る光栄であると同時に、その重責に身の引き締まる思いであります。

1970年の開院以来、当院は兵庫県における小児医療の中核として、子どもたちとご家族に安心・安全で質の高い医療を提供してまいりました。

1994年の周産期医療センターの開設(2000年に総合周産期母子総合医療センター指定)、2007年の小児救急医療センターの開設(2017年に小児救命救急センターに指定)、さらに小児がん拠点病院の指定など、診療機能の充実を着実に進めてまいりました。また、診療・研究の両面から日本の小児医療の発展に寄与してまいりました。

これらは、子どもたちとご家族、地域の皆さま、そして職員一人ひとりの力が結集した成果であり、今後もこの歩みを止めることなく、さらなる発展に向けて尽力してまいります。

同時に、医療の質のみならず、安心して療養できる環境づくりや、ご家族に寄り添う姿勢を大切にしております。

一方で、少子化の進行や医療コストの増大により、小児医療を取り巻く環境は大きく変化しております。加えて、医療DXの進展やAIの普及など、医療のあり方そのものも変わりつつあります。こうした時代の変化を的確に捉えながら、当院が果たすべき役割を見据え、持続可能で質の高い医療体制を構築してまいります。

さらに、次世代を担う医療人の育成や、多職種連携の強化を通じて、地域全体の小児医療の底上げにも貢献してまいります。

当院は単なる一地域の小児病院にとどまらず、日本を代表する小児病院を目指し続けることをお約束いたします。

今後とも兵庫県立こども病院へのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。





病気になって見つけた夢

私は若年性特発性関節炎という病気を患っており、今は大学で公認心理師という将来の夢に向けて日々勉強しています。

私がこの病気になったのは小学6年生でした。膝の関節が痛く、動きづらい日々が続きました。最初は成長痛だと思っていましたが、1ヵ月経っても痛みはなくなり、様々な病院を受診し、こども病院を紹介され診察してもらおうと、若年性特発性関節炎と診断され、車椅子での生活になりました。

最初は膝の痛みだけだったものの、徐々に他の関節も痛くなりました。目が覚めて少し体を動かすと痛みを感じ、泣きながら両親に体を起こしてもらって1日が始まりました。学校へは両親が一人で動くことが難しいこと、朝動けず遅刻する日が多くなること等を伝え、教室をエレベーターのある棟へ移動するなどの協力をしてもらいました。病気になり、初めて登校するとき、友達に可哀想だと思われて気を遣われるかもしれないと不安に思っていました。しかし、友達は明るく今まで通りに接してくれて、できないことが多い私ができることは何か、私ができるようにはどうすればいいかをたくさん考えてくれました。友達の行動や言葉がうれしくて、学校も楽しく、恵まれた環境にいることを実感しました。

世間からも、可哀想だと思われるような気がして外出がとても怖かったです。何かしてもらったとき謝っていました。そんな時に看護師さんから「ごめん」より「ありがとう」と伝えたほうがいいと言われ、とても心が軽くなりました。それから

外出が怖くなくなりました。病気になってからずっと、なぜ自分がこの病気にならなければいけなかったのか、いつまでこんなに苦しい思いを続けなければならないのかなどマイナスな考えばかりでしたが、先生や看護師さん、周りの人々が支えてくれたおかげで、そんな考えをすることも少なくなり、治療に専念することができました。

治療が進み1年ほどで歩行ができるようになりました。病気で辛かった時に支えてもらった経験から、自分のように病気で辛い気持ちを抱えているこどもたちの心を助けたいと強く思うようになり、公認心理師になるという夢ができました。

難病だと診断されてから、思うように動くことができず、当たり前ができない自分に辛くなり、痛みを感じるたびに悲しく、泣く日々を過ごしていました。しかし、病気になって、人の痛みを理解することができ、目指したいものができました。辛かった日々も私の人生に必要なものだったと思います。今では病気だということを忘れて動きすぎてしまう日があるくらい元気に生活することができています。支えてくださったすべての皆さまのおかげです。心から感謝申し上げます。

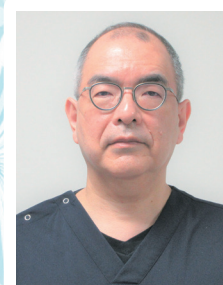


新幹部紹介



長谷川 大一郎 副院長

このたび、副院長（診療・経営企画担当）を拝命しました長谷川です。当院で診療を受けられる患者様ならびに地域の皆様から引き続き信頼を寄せられるこども病院であり続けられるよう、力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



田中 敏克 副院長

このたび副院長（診療支援・医療安全担当）を拝命しました田中です。こども病院に勤務して20年目になります。医療安全部長として5年間、医療安全部の実務を担当した経験を活かし、安全で質の高い医療を提供できるように取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



黒澤 寛史 診療部長

これまでは小児集中治療センター長として、重症例のために各診療科や他部署と連携してきました。これからは診療部全体をまとめつつ、他部署との調整にも当たります。今年度は病棟再編もあり、これまで以上に診療科間、部署間のコミュニケーション、丁寧な説明が重要となります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



濱田 米紀 看護部長

このたび看護部長に着任しました濱田です。社会情勢や医療環境が劇的に変化中、私たちはその変化に柔軟に対応しながら、本来の看護師の使命と責務を果たしていく必要があります。病気や障がいと向き合い、精一杯頑張っている子どもたちやご家族のために、医療チームでよりよいケアを提供できるよう努めてまいります。



武本 かおり 看護部参事

4月より、看護部参事に着任しました武本です。子ども一人ひとりの思いとご家族の声に丁寧に耳を傾け、安心と笑顔を支える看護を大切にしていきたいと思います。変化の大きい今の時代だからこそ、専門性と温かさをもって質の高い看護を提供できるよう、日々努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。